

## 政策目標 2

安全・安心で快適なまち

政策目標	2	安全・安心で快適なまち		
施策分野	1	消防体制の強化	担当課	危機対策課
目 標	安心して住めるまち・安心して泊まれるまちを目指します。			

## ○ 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
	消防団員数	506人	502人	506人	<b>B+</b>

これまでの 推 移	指 標	H30	R1	これまでの 推移
	消防団員数	506人	506人	→

## ○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 広域常備消防との連携強化	広域常備消防との会議数	4回	5回	4回	<b>A</b>
02 消防団の充実強化・活性化 対策の推進	消防団協力事業所への新規 登録数	1事業所	累計 20事業所	累計 5事業所	<b>A</b>
03 消防活動支援員の充実強化	活動支援員への新規登録数	10人	累計 20人	累計 50人	<b>C</b>
04 消防水利の充実強化	充足率	91.3%	75.6% (R1)	100%	—

《方策01～03：基準値(H27)》平成28年4月、消防広域化により駿東伊豆消防本部発足のため、業務が市役所所管となった初年度である平成28年度の数値を記載。

《方策02：現状(R2)、目標値(R2)》消防団協力事業所の新規登録数は5箇年で5事業所を登録することが目標のため、目標及び現状(R2)は累計で記載。

《方策03：現状(R2)、目標値(R2)》活動支援員の新規登録数は5箇年で50人を登録することが目標のため、目標及び現状(R2)は累計で記載。

《方策04：基準値(H27)、現状(R2)、達成状況》消防水利の充足率の基準値は平成27年度駿東伊豆消防本部伊東消防署にて実施した「消防施設整備計画実態調査」の数値。現状(R2)については、令和元年度調査の値を近値として掲載した（次回調査は令和4年度の予定）。達成状況については、平成27年度実施の消防施設整備計画実態調査と令和元年度実施の同調査において調査方法が変更されており、この変更により、基準値・目標値と大幅な乖離が生じたため、最終評価の達成状況は評価困難（“—”）とした。

## ○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
	—

## ○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化 等）
成果指標	・ 令和元年度まで条例定数を維持していたが、人口減少等の理由により令和２年度には４人減少してしまった。	・ 地域の実情を聞き取り、新規団員の加入に努めるとともに、消防団員の待遇・活動環境の向上を図る。
方策01	・ 広域消防本部との連携強化・情報共有を図るための会議を目標値以上に開催することができた。	・ 今後も引き続き、広域消防本部との連携強化・情報共有を図っていく。
方策02	・ 消防団の充実強化・活性化を推進するため、消防団協力事業所を目標値以上に新規登録することができた。	・ 今後も引き続き、消防団協力事業所の新規登録に向けた広報等を行っていく。
方策03	・ 消防活動支援員の新規登録者は地域ごとに数に偏りが生じてしまい、目標を達成することができなかった。	・ 活動支援員の登録者数は地域により偏りがあるため、退団した消防団員に活動支援員の重要性について理解していただき、全ての地域で登録者が増加するよう努める。
方策04	・ 平成27年度と令和元年度に行った消防施設整備計画実態調査（消防本部で実施）では、調査方法が変更となったことが原因で、実績値が大幅に減少したことから評価困難とした。	・ 消防水利未整備地区の把握や水利希薄地区等の住民要望等の情報収集に努め、状況に応じて消防水利を整備していくことで水利充足率の向上を図る。

第十次基本計画 最終評価（2-2）

政策目標	2	安全・安心で快適なまち		
施策分野	2	災害対策の充実	担当課	危機対策課
			関係課	教育総務課・建築住宅課・社会福祉課
目 標	市民の危機管理意識が高く、有事に強いまちを目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
	自主防災組織数	169団体	168団体	169団体	<b>B+</b>
	発生後の人的被害（死者数）	0人	0人	0人	<b>A</b>

これまでの 推 移	指 標	H30	R1	これまでの 推移
	自主防災組織数	168団体	168団体	→
	発生後の人的被害（死者数）	0人	0人	→

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 防災意識の向上	防災講演会参加者数	768人	254人	500人	<b>B+</b>
02 危機管理体制の強化	発災時の人的被害者数	0人	0人	0人	<b>A</b>
03 情報伝達体制の強化	デジタル化進捗率	15.0%	100%	80%	<b>A</b>
04 耐震化の推進	公共建築物の耐震化率	67.3%	95.8%	100%	<b>D</b>
	耐震診断の実施率	10.6%	96.4%	100%	<b>D</b>
05 避難行動要支援者避難支援計画の推進	避難行動要支援者避難支援計画の個別計画における避難支援者登録割合	0%	0%	50%	<b>D</b>

## ○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方策	これまでの実施内容
この施策は分野全体を市民との協働により推進していきます。	

## ○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化 等）
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主防災組織数が1団体減になったのは合併によるものであり、活動しやすい組織改変ができています。</li> <li>・ 人的被害については、風水害等の災害発生時に負傷者は出てはいるが死者は0人である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伊東市津波避難計画に基づき、発災時の避難について普及啓発を行うことで、想定死者数ゼロを目指す。</li> </ul>
方策01	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和2年度のコロナ禍の影響を除く4年間では、防災講演の参加者が増加しており、市民の防災に対する意識の高さを感じられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管内で懸念される災害に対する防災知識とともに、全国各地で発生した災害事案などから最新の防災情報とコロナ禍での災害対応及び自主防災活動等を啓発していく。</li> </ul>
方策02	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 風水害による負傷者は平成28年度から平成30年度まで毎年1人発生していたが、令和2年度には負傷者の発生はゼロであった。災害時や気象状況悪化時にとる適切行動等を防災訓練、防災講話、広報誌などにより啓発してきた成果が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害発生時及び台風等の風水害が予想される場合などにおける自助について広報等による啓発を行う。</li> </ul>
方策03	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同報無線のデジタル化について、進捗率（事業費ベース）に遅れは出ていたものの、全体計画は予定どおり推移し、令和3年2月に当該デジタル化整備は完了している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタル化整備が完了した同報無線を常時正常に運用できるよう保守点検を行い適正な管理を図る。</li> </ul>
方策04	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耐震補強工事等により、一定の耐震化率向上を遂げたものの、一方で建設予定等が必要なため、早急な対応が困難なものがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市有建築物耐震性能リストにより、耐震基準の満たない施設については、所管課に今後計画を確認し、さらなる耐震化推進を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後代替施設が建設される予定があるものなどもあるため、実績値が目標に近づかない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未診断の既存施設については、代替施設等の予定があるものであるが、予定の変更等による場合については対応を図る。</li> </ul>
方策05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援者の登録には町内会、自主防災会、民生・児童委員協議会のほか、地域包括、介護支援専門員等の協力が不可欠であり又、本人の同意も必要になるため整備が困難であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害対策基本法の改正により今後、改定、公表が予定されている「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針」を基に計画を推進していく。</li> </ul>

政策目標	2	安全・安心で快適なまち		
施策分野	3	総合治水対策の強化	担当課	建設課
			関係課	危機対策課
目 標	水害や土砂災害に強いまちを目指します。			

## ○ 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
	河川があふれる件数	0件	0件	0件	A

これまでの 推 移	消防団員数	H30	R1	これまでの 推移
	河川があふれる件数	0件	0件	→

## ○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 河川及び水路の整備促進及び維持管理	河川があふれる件数	0件	0件	0件	A
02 砂防及び急傾斜地崩壊防止事業の促進	指定箇所数	34箇所	累計1箇所	累計10箇所	D
03 水防体制の整備	風水害による人的被害者数	0人	0人	0人	A

## ○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
市民と市との協働による 河川の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内河川愛護推進協議会と協働し、環境美化活動による維持管理に努めた。また、県（リバーフレンドシップ制度）と連携協力し、愛護思想の向上に努めた。</li> <li>・町内会で行われる清掃活動に伴う排土運搬業務を市で行い、側溝清掃参加団体の利便向上を図った。</li> </ul>
市民と市との協働による 雨水の宅地内処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路及び河川等への雨水流入の減少を図るため、新築時等の敷地内処理の推進に努めた。</li> </ul>

## ○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化 等）
成果指標	・危険箇所、溢水箇所の修繕、改修を行い、また豪雨時におけるパトロールを実施したことにより、河川及び水路の溢水による被害を防止した。	・今後とも河川等パトロールを実施し、事前に危険箇所の把握を行い、素早い対応を図る。
方策01	・危険箇所、溢水箇所の修繕、改修を行い、また豪雨時におけるパトロールを実施したことにより、河川及び水路の溢水による被害を防止した。	・今後とも河川等パトロールを実施し、事前に危険箇所の把握を行い、素早い対応を図る。
方策02	・砂防及び急傾斜地崩壊危険箇所の指定については、要望箇所及び該当箇所が少なかったため、指標の達成には至らなかった。	・砂防事業及び急傾斜事業について、広報・周知等を行い、各事業の促進に努める。
方策03	・平成28年度から令和元年度まで毎年、風水害による負傷者が発生している。負傷者については、台風等襲来時の行動が起因となるものが大半である。	・大雨、強風、台風等により風水害が予想される場合の注意点や行動について、訓練や広報等を活用し普及啓発を行う。

政策目標	2	安全・安心で快適なまち		
施策分野	4	地域安全活動の充実	担当課	危機対策課
			関係課	市民課
目 標	事件・事故が少なく、安全で安心なまちを目指します。			

## ○ 目標（成果指標）の達成状況

	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
成果指標	市内における刑法犯認知件数	365件	258件	392件	A
	市内における交通人身事故発生件数	512件	325件	489件	A

	指 標	H30	R1	これまでの 推移
これまでの 推 移	市内における刑法犯認知件数	363件	324件	↗
	市内における交通人身事故発生件数	443件	367件	↗

## ○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 防犯・暴力追放対策の充実	年間の啓発活動事業数	10回	15回	24回	C
02 交通安全対策の充実	四季の交通安全運動期間中の啓発活動事業数	24回	22回	32回	D
03 消費者の立場に立った相談業務の充実	相談件数	622件	672件	560件以下	C



## ○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
犯罪及び交通事故防止に対する意識の高揚	伊東市交通指導員会、伊東市交通安全母の会、伊東警察署地域安全推進協議会等の市民有志の関係団体の協力のもと、四季の交通安全運動や全国地域安全運動等における啓発事業を実施した。

## ○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化 等）
成果指標	・安全安心で快適なまちづくり推進のため、過去に実施してきたさまざまな地域安全活動の結果、目標を達成できた。	・市民の安全に対する意識が低下することなく、常に高いレベルで維持できるよう、啓発活動のマンネリ化に注意する。
方策01	・啓発活動が前年度と同じ内容になり、新規事業の立ち上げができず、事業数が増えなかったため、目標達成に至らなかった。	・伊東警察署生活安全課や防犯協会等の関係団体と協力して、新規事業の立ち上げに努める。また、他市町の状況を調査し、先進事例については取り入れていきたい。
方策02	・啓発活動が前年度と同じ内容になり、新規事業の立ち上げができず、事業数が増えなかったため、目標達成に至らなかった。	・伊東警察署交通課や交通安全協会等の関係団体と協力して、新規事業の立ち上げに努める。また、他市町の状況を調査し、先進事例については取り入れていきたい。
方策03	・消費生活センターを開設し、多様化・複雑化する消費者からの相談に対応した。また、新型コロナウイルス感染症防止を考慮しつつ、可能な範囲での研修会参加を行い、職員及び相談員の知識向上を図ることで、適切な情報提供、助言を行った。また、弁護士等専門家とも連携し、的確な対応ができた。	・消費者庁や国民生活センターを司令塔として、高度化・専門化が進む消費者被害者への対応力向上を図る。また、消費者教育出前講座等の開催について検討し、被害の防止に努めていく。

政策目標	2	安全・安心で快適なまち		
施策分野	5	安全な水の安定供給	担当課	水道課
目 標	安心でおいしい水が安定的に供給されるまちを目指します。			

## ○ 目標（成果指標）の達成状況

	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
成果指標	水質・安定供給・水道料金などを総合的に評価した場合の、満足している使用者の割合	86.6%	88.0%	90%	<b>C</b>

	指 標	H30	R1	これまでの 推移
これまでの 推 移	水質・安定供給・水道料金などを総合的に評価した場合の、満足している使用者の割合	87.0%	86.2%	→

## ○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 安全な水道水の確保	水質基準適合率	100%	100%	100%	<b>A</b>
02 水道水の安定供給対策の推進	断水件数	4件	5件	0件	<b>D</b>
03 災害時に迅速に対応できる体制づくり	災害対策訓練の実施	実施	2回/年	6回/年	<b>B+</b>
04 災害・事故に備えた施設の管理・耐震化の推進	幹線管路（φ150mm以上）の耐震化率	32.6%	34%	38%	<b>D</b>
05 持続可能な経営基盤の強化	実質余裕資金の確保	12億8,247万円	15億円	10億円以上	<b>A</b>
06 民営水道の統合の推進	未統合の事業者との協議回数	—	1回/年	3回/年	<b>B-</b>

≪方策06:基準値(H27)≫第十次基本計画策定に当たり、新たに設定した指標であるため数値なし。

## ○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
災害に備えた水の備蓄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時の断水に対応するため、災害緊急備蓄用ポリ容器を継続して購入した。</li> <li>・地域防災訓練の際、災害に備えた水の備蓄の呼びかけを行うとともに、ポリ容器を使用した給水車からの給水訓練を実施した。</li> </ul>

## ○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化 等）
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・88%のお客様から「満足している」との評価をいただいており、満足度は高いものと考えている。今後も、老朽化施設の更新や耐震化を進め、さらなる満足度の向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊東の「おいしい水」をPRできるよう、イベントとのコラボレーション等を検討する。</li> </ul>
方策01	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水質基準を超えることなく、安全で安心な水質を提供できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も水質監視を最重要視し、水質基準に多少でも変化がある場合は迅速に対応する。</li> </ul>
方策02	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管路施設の老朽化による漏水により、断水を伴う復旧工事件数が増えており、目標達成に至らなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道事業にとって水道水の安定供給は絶対条件であることから、断水を発生させないためにも、老朽管路の更新工事を推進する必要がある。</li> </ul>
方策03	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により目標を達成できなかったが、引き続き、災害対策訓練を実施していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も近隣市町や伊東管工事工業組合と連携し、災害時の体制確立を図っていく。</li> </ul>
方策04	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幹線管路の耐震化については、目標の耐震化率まで達成できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幹線管路はφ150mm以上であり、耐震化を図るための耐震管への布設替えについては、予測不能な大地震等に対応できるよう耐震化は急務であり、今後は、水道事業の経営状況を鑑み、重要給水施設を優先的に実施する必要がある。</li> </ul>
方策05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実質余裕資金は目標を達成しているが、依然として給水収益の減少傾向が続いており、また施設の更新及び耐震化のための資金投入が必要になることから、効率的な運営が必要となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収納率を向上させるため、委託会社と連携し未納者対策を講じる。また、資金状況と借入金利の状況を考慮し、バランスのとれた企業債の借入により健全な事業運営に努める。</li> </ul>
方策06	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民営水道の統合については、過年度より水道事業者と協議を重ねているが、残り3団体については協議が行き詰まっている状況である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民営水道の統合に当たっては、統合後の維持管理や施設更新の経費を見極める必要があり、事業者と協議を進めつつ統合には妥協せず慎重に行う必要がある。</li> </ul>

政策目標	2	安全・安心で快適なまち		
施策分野	6	ごみ対策の充実	担当課	環境課
目 標	ごみの少ない良好な環境を目指します。			

## ○ 目標（成果指標）の達成状況

	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
成果指標	ごみの排出量	33,695トン	32,034トン	31,789トン 以下	D
	リサイクル量 ※括弧書は資源化率	6,738トン (20.00%)	5,829トン (18.20%)	6,926トン以上 (21.79%)	D

	指 標	H30	R1	これまでの 推移
これまでの 推 移	ごみの排出量	33,327トン	33,920トン	↓
	リサイクル量 ※括弧書は資源化率	6,153トン (18.46%)	6,056トン (17.85%)	↓

## ○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 ごみの分別の更なる推進	可燃ごみ量	30,142トン	28,883トン	27,920トン 以下	D
02 ごみ減量のための３Ｒの推進	資源化量	6,008トン	5,399トン	4,487トン 以上	A
03 一般廃棄物処理施設の整備	整備率	—	61%	100%	D
04 リサイクル環境の整備	ペットボトル等回収量	86トン	112トン	757トン以上	D
05 不法投棄対策の推進	回収量	72.7トン	81トン	73トン以下	B-

《方策03：基準値(H27)》平成28年度～令和２年度の整備を100%としているため数値なし。

## ○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
地域ぐるみによる環境美化活動	・ごみゼロ運動クリーン作戦については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止したが、それ以前は毎年実施した。また、地域の清掃活動やボランティア清掃に対し、清掃後のごみの収集など支援を行った。

## ○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化 等）
成果指標	・年々ごみの排出量は減少傾向にあるものの、目標達成には至らなかった。またリサイクル量とともにリサイクル率も減少しており、一層の対応策が必要である。	・生ごみの水切りを促進することで、ごみの減量化を図るとともに、可燃ごみに混じっている紙類や古布、ペットボトルなどの資源ごみを減少させるべく、分別やリサイクルについて啓発活動を進める。
方策01	・減少傾向にあるものの、過去5年目標値には一度も届かなかった。	・生ごみの水切りや可燃ごみに出される資源ごみの分別を徹底することで、可燃ごみの減少を図る。
方策02	・目標値を上回っているものの、資源化率としては減少となった。	・ごみの排出量が年々減少しているため、資源化量も減少しているが、今後はごみの排出量に対しての資源化率を高めていきたい。
方策03	・一般廃棄物処理施設の整備は、各廃棄物処理施設の老朽化内容や進捗状況が異なるため、各施設の整備率は不均等である。各年度の予算範囲で緊急を要する箇所については、優先して整備を執行することができたので、全体としては、廃棄物処理を適正に行うことができた。	・故障予防の観点から早期な点検整備を行い、廃棄物処理設備の状態を把握し、緊急性の高い箇所から順次整備を行っていく。
方策04	・廃プラスチック製容器包装の全市域での実施に至らなかったため、過去5年間一度も目標を達成できなかった。	・2022年以降のプラスチック製品の取扱いについて、国や県の指針に注視し、対応策を検討していきたい。
方策05	・不法投棄については、回収困難な場所や未発見の場所などがあるものの、過去5年間で、3回目標を上回ることができた。	・不法投棄防止のため、パトロールを継続していくとともに、対策にも力を入れ、不法投棄を回収した場所には今後捨てられないよう努める。

政策目標	2	安全・安心で快適なまち		
施策分野	7	環境にやさしいまちづくり	担当課	環境課
			関係課	産業課
目 標	市民が環境に関心を持ち、人にやさしいまちの創造を目指します。			

## ○ 目標（成果指標）の達成状況

	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
成果指標	太陽光発電システム設置件数	1,476件	1,767件	2,300件以上	<b>C</b>
	愛護動物・公害に関する迷惑行為に寄せられる苦情件数	55件	70件	66件以下	<b>B+</b>

	指 標	H30	R1	これまでの 推移
これまでの 推 移	太陽光発電システム設置件数	1,827件	1,588件	↓
	愛護動物・公害に関する迷惑行為に寄せられる苦情件数	49件	45件	↑

## ○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 低炭素社会の推進	市役所の温室効果ガス排出量の削減率 (平成23年度比)	5.57%	6.26%	7.5%	<b>C</b>
02 森林整備事業の促進	森の力再生事業整備面積	26ha	1.47ha	20ha	<b>D</b>
03 健康で安全な生活環境の確保	環境基本計画の施策の目標達成率	93.4%	86.4%	100%	<b>D</b>
	狂犬病予防注射の接種率	62.3%	66.2%	70%	<b>D</b>

## ○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
環境カウンセラー等との協働による地球環境や生活環境の保全を図る啓発活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 静岡県地球温暖化防止活動推進センター等関係機関と市内在住環境カウンセラーなどの協力を得て、アースキッズ事業を実施し、小学5年生を対象に各家庭において、環境問題や地球温暖化防止活動等に取り組んだ。</li> <li>・ 令和元年度は、初めての試みであったが、「ごみフェスティバル2019」において、環境教育ブースを設置し、地球温暖化防止センターの協力のもと、市民向けの啓発活動を行った。</li> <li>・ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、「ごみフェスティバル2020」が中止となり、予定していた啓発活動ができなかった。</li> </ul>
市民参加の森づくり推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林所有者や地域住民等が協力して森林の有する機能を発揮させるための保全活動の取組に対して支援した。</li> </ul>
市民・動物ボランティア・保健所との協働による地域ねこ対策の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飼い主のいないねこによる迷惑行為を減少させるため、給餌等を行っている市民に対し、管理マナーの向上や地域問題の解決を図るため、熱海保健所等と連携を図り、啓発活動を実施した。</li> </ul>

## ○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化 等）
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太陽光発電システムの設置件数は、FIT法改正による平成28年4月からの「電力自由化」に伴い、不特定多数の事業者が売電事業に参加可能となり、世帯数の電力需給件数が把握できなくなったため、資源エネルギー庁が公表している「市町村別事業認定数（個人及び法人合計数）」としている。買取期間10年が経過した太陽光発電システムが増え、蓄電池システムの設置が増加したが、目標達成には至らなかった。</li> <li>・ 愛護動物に関する迷惑行為による苦情では、大半が飼い主のいない猫へのエサ遣りによる糞尿被害となっている。</li> <li>・ 公害に関する迷惑行為による苦情では、大半が野焼きとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太陽光発電システムの補助制度等について周知・啓発に努める。</li> <li>・ 愛護動物に関する迷惑行為による苦情では、適正な飼養をするように県熱海保健所と連携して対応していく。</li> <li>・ 公害に関する迷惑行為による苦情では、大半が野焼きとなっており、「野焼きは、禁止である」ことの周知・啓発に努める。</li> </ul>
方策01	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和元年度までは達成状況は増加していたが、令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、リモート会議が増加したことによる自動車の使用エネルギー及び市施設休止による市施設使用エネルギーは削減したが、小中学校の空調設備が完備されたことによるＬＰＧ使用量が削減分を上回る増加があったことから、目標達成には至らなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 省エネルギーについては既に限界近くまで実施している状況のため、今後は、施設において修繕及び改修工事が実施される際に、新エネルギー及び再生可能エネルギー機器の導入を進めるように周知・啓発に努める。</li> </ul>
方策02	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森の力再生事業を中心に整備を進めるとともに、地域住民や森林ボランティアと協働した市民参加の森づくりの推進に努めたが目標達成には至らなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森の力再生事業を中心とした整備の進行にあたり、事業の周知や働きかけを行うとともに、森林ボランティアや地域活動組織が行う事業を支援し、多くの市民が気軽に森づくりに参加できる環境を整える。</li> </ul>
方策03	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境基本計画に定める目標指標の中に環境に関するイベントや講座があるが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、不特定多数の人との接触を避け、イベントや講座を中止しており、令和元年度以前と比較して実績値が減少した。</li> <li>・ 狂犬病予防注射の接種率向上を図るため、令和元年度から予防接種の督促状を送付し、新たな接種登録や死亡届の提出など効果があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境基本計画に定める目標を達成すべく、環境保全について周知・啓発に努める。</li> <li>・ 狂犬病予防注射の接種率向上を目指し、引き続き、督促状の送付や臨戸訪問等による接種指導に努める。</li> </ul>



政策目標	2	安全・安心で快適なまち		
施策分野	8	生活排水対策の充実	担当課	下水道課
			関係課	環境課
目 標	生活排水の適正処理や水洗化により、清潔で快適な生活環境を目指します。			

## ○ 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
	環境基準 (河川BOD・海域COD)	達成	達成	達成	A

これまでの 推 移	指 標	H30	R1	これまでの 推移
	環境基準 (河川BOD・海域COD)	達成	達成	→

## ○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 下水道の整備促進	整備済み面積	580.28ha	595.4ha	598.2ha	B-
02 水洗化の促進	下水道普及率	80.6%	83.20%	85.00%	C
03 下水道施設の適正管理	放流水質のBOD、COD (mg/L)	BOD1.2mg/L COD2.8mg/L	BOD15mg/L 以下 COD20mg/L 以下	BOD15mg/L 以下 COD20mg/L 以下	A
04 下水道の健全経営（公営 企業会計の導入）	汚水処理費に係る経費回収 率	74.4%	51.8%	80.0%	C
05 適正な浄化槽の維持管理 の推進	合併浄化槽設置補助件数	36 基	12基	25 基	C
	浄化槽法第7条、 第11条検査受検率	7条=34% 11条=4%	7条=69% 11条=8%	7条=40% 11条=10%	D



## ○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
水環境に対する 市民の理解促進 【下水道課】	<p>【接続促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共下水道接続促進に係る訪問事業の実施</li> </ul> <p>【周知啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下水道の日（9月10日）に合わせ、下水道事業に係るパネル展示</li> <li>・湯川終末処理場施設見学の実施（小学生）</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合併処理浄化槽設置費補助事業の市HP、「広報いとう」への掲載</li> </ul>
水環境に対する 市民の理解促進 【環境課】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浄化槽パトロール等の啓発活動を県と連携を図りながら実施した。</li> <li>・東部健康福祉センター生活環境課が実施する新規浄化槽設置者講習会を、年2回開催した。（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。）</li> </ul>

## ○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化 等）
成果指標	・処理施設の適正管理により、河川・海域共に、環境基準をクリアしており、公共用水域の水質保全が保たれている。	・今後も処理施設の適正管理（運転）により公共用水域の水質保全に努める。
方策01	・川奈処理分区への延伸に着手し、主要幹線及びマンホールポンプ場の設置に向けた取組を実施した。	・今後も川奈処理分区への延伸に向け、整備を進める。
方策02	・目標には到達していないが、下水道未接続世帯への訪問事業を実施したことにより、当該事業による接続件数は増加した。	・現行の訪問事業を継続して実施し、下水道が環境保全に果たす役割を説明し、接続意識の高揚を図る。
方策03	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下水道施設の維持管理については、包括的民間委託により、効率的な運転に努め、マンホール蓋等の破損による緊急修繕等にも迅速に対応した。</li> <li>・施設の耐震化についても、防災・減災の観点から重点的に対策を講じた。</li> </ul>	・下水道施設の維持管理（改築・更新等）には、長期間を要し、多額の費用も発生することから、ストックマネジメント計画や総合地震対策計画等に基づいた、効率的な施設管理に努める。
方策04	・人口減少や節水機器の普及に伴う有収水量の減少に加え、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年よりも大幅に有収水量が減少し、使用料収入に影響した。	・令和2年度から公営企業会計制度に移行したことで、より経営の健全性が求められる中、経費回収率が低いため、経費削減に努めるとともに、適正な使用料金の設定を検討していく。
方策05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度から当該事業による補助対象を、これまでの「新築+設置替え」から「設置替え」のみに変更した。このことにより、設置件数は目標値の約半分となってしまったが、予算執行率は対前年を上回った。</li> <li>・県と連携を図りながら、浄化槽パトロールや新規浄化槽設置者講習会の開催等の啓発活動を実施したが、法定検査の受験率及び講習会の出席率は、目標とする数値には届かなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容の変更により、補助対象件数が減少することになるが、今後の事業実績や市民ニーズを反映させ、必要であれば事業の拡大も視野に入れていく。</li> <li>・浄化槽の維持管理の推進について、引き続き、浄化槽パトロール等の啓発活動を県と連携を図りながら実施する。</li> </ul>

政策目標	2	安全・安心で快適なまち		
施策分野	9	良好な住環境の整備	担当課	建築住宅課
			関係課	都市計画課
目 標	建物の安全を確保し、良好な住環境を目指します。			

## ○ 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
	民間住宅の耐震化率	77% (H25)	83% (H30)	95%	D
	建築基準法による完了検査実施率	94.0%	89.0%	100%	D

これまでの推移	指 標	H30	R1	これまでの推移
	民間住宅の耐震化率	83%	83% (H30)	—
	建築基準法による完了検査実施率	91%	88%	→

《民間住宅の耐震化率》実績値は土地統計調査（5年毎）の結果を採用していることから、「現状(R2)」は最新の平成30年度数値を記載し、達成状況についても当該数値を基に判定した。また、「これまでの数値」については令和元年度以降の数値がないことから“—”とした。

## ○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 民間建築物の耐震化の推進	耐震診断の実施率	10.6%	13%	15%	D
02 建築物の完了検査実施の推進	完了検査実施率	94%	89%	100%	D
03 民間建築物アスベスト対策の推進	撤去等工事件数	0件	0件	2件	D
04 市営住宅の維持・管理	削減戸数	0戸 (延べ19戸)	9戸 (延べ58戸)	5戸 (延べ41戸)	A
05 空家等に関する施策の実施	解体撤去の件数	—	16件	10件	A

《方策05：基準値(H27)》平成28年度から空家に関する事務が都市計画課から建築住宅課に移管され、新たに設定した指標であるため数値なし。

## ○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
住環境の安全性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存建築物の所有者からの建築相談対応</li> <li>・ 木造住宅の無料耐震診断の実施</li> <li>・ 耐震補強工事等補助金の交付</li> <li>・ 建築物の確認完了検査実施の啓発</li> <li>・ 耐用年数が既に経過した市営住宅を用途廃止して解体及び撤去することによる市営住宅の適切な維持管理</li> <li>・ 市内に点在する空家等の管理及び対策を所有者に通知等</li> </ul>

## ○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化 等）
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間住宅の耐震化率は、平成30年に実施した土地統計調査の集計結果が示され、実績値は県から提供を受けた算定式により算出し83%と上昇したが、目標値の95%に至らなかった。</li> <li>・ 建築基準法による完了検査実施率は5年間1度も目標である100%を達成できなかったが、確認申請を提出後、未だ未着工のものもあることを考慮すれば、概ね目標に近い値となっていると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象となる建築物の減少を考慮し、個別による訪問等の活動を増やし、耐震補強の必要性及び補助金の活用を促すことに努め、継続して推進を図っていく。</li> <li>・ 完了検査においても、建築士会を通じて検査の実施を促すことに努め、継続して推進を図っていく。</li> </ul>
方策01	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木造住宅の耐震診断の実施率は13%で目標の15%に至っていないが、概ね達成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象となる建築物の減少を考慮し、個別による訪問等の活動を増やし、耐震補強の必要性及び補助金の活用を促すことに努め、継続して推進を図っていく。</li> </ul>
方策02	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築基準法による完了検査実施率は5年間1度も目標である100%を達成できなかったが、確認申請を提出後、未だ未着工のものもあることを考慮すれば、概ね目標に近い値となっていると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 確認申請時の継続した啓発や、建築士会を通じて検査の実施を促すことに努め、継続して推進を図っていく。</li> </ul>
方策03	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間建築物アスベスト対策による撤去工事の件数は0件で目標値の2件に至らなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アスベスト撤去等に対する補助事業が平成28年度にて終了しているが、引き続きアスベストを含む建築物について、撤去等を促していくことが必要と考える。</li> </ul>
方策04	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎年度において、用途廃止済の簡易耐火構造住宅及び木造戸建住宅を効率良く解体・撤去したことで、市営住宅建物の安全性や良好な住環境の確保につながり、このことで設定した目標値も達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耐用年限が既に経過した老朽住戸は、用途廃止の手続を執った上で順次、解体・撤去を進めていくことで、市営住宅建物の安全性の確保や良好な住環境づくりを図り、適切な維持管理につなげていく。</li> </ul>
方策05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空家等に関する施策の実施について、台風等の風水害による市民の災害に対する意識の向上により、空家等の解体撤去の目標が達成された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災の観点のみならず、景観的観点からも長期的な空家となった廃屋の解体撤去を周知し推進する。</li> </ul>

政策目標	2	安全・安心で快適なまち		
施策分野	10	潤いと活気のあるまちづくり	担当課	都市計画課
			関係課	市民課
目 標	地域特性をいかした安全で快適な市街地を形成するとともに、良好な街並み景観を目指します。			

## ○ 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
	伊東市の景観が好ましいと感じる市民の割合	58.8%	58.3%	64%	<b>D</b>

これまでの推移	指 標	H30	R1	これまでの推移
	伊東市の景観が好ましいと感じる市民の割合	57.1%	55.5%	↓

## ○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
01 中心市街地の活性化の推進	湯の花通り・キネマ通りの平均歩行者数	1,883人 (H21.10)	1,840人 (H30.2)	1,840人	<b>A</b>
02 自然環境をいかした憩いの場の整備	市民1人当たりの公園面積	7.9㎡	8.8㎡	8.5㎡	<b>A</b>
03 個性的で魅力あふれる景観の形成と保全	景観が好ましいと感じる市民の割合	58.8%	58.3%	64%	<b>D</b>
04 伊東駅前地区の賑わいの演出	伊東駅周辺地区整備計画の進捗率	0%	3%	30%	<b>D</b>
05 土地利用の健全化	土地の使い方が良いと感じる市民の割合	59.2%	47.5%	59%	<b>D</b>
06 伊東市営霊園の整備推進	霊園整備面積（㎡）	22,103.12	22,809.52	23,677.12	<b>B+</b>

《方策01：現状(R2)》商店街連盟が実施する調査結果を採用しており、平成29年度の次の調査は令和3年度に実施される予定であることから、現時点で最新の平成29年度実績を記載し、当該実績値で達成状況を判定した。また、「目標達成に向けた今後の対応についても、平成29年度数値を基に記載した。

## ○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
市民との協働による中心市街地活性化の促進	松川周辺地区まちづくり推進協議会と協働による伊東大川や唐人川の清掃を行うとともに、寺田川と伊東大川の合流部における修景整備や、まちの由來說明サイン設置事業に関する検討協議を行った。

## ○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化 等）
成果指標	・良好な街並み景観を目指し、伊東市景観計画等に基づき開発事業者に対して指導しているものの、アンケート調査では本市の景観が好ましいと感じる市民の割合が目標に至らなかった。	・令和2年度に景観形成基本計画及び景観計画の改訂を行い、次代へ引き継ぐべき重要な地区として重要景観形成地区の候補地の選定や新たな眺望点の指定等を追記しました。今後、自ら積極的に景観形成に取り組もうとする地域を候補地から重要景観形成地区へ指定し、地元住民と連携しながら景観形成の推進に努める。
方策01	・中心市街地の活性化については、まちづくり団体との協働事業により目標が達成された。	・伊東市を訪れる観光客に本市の魅力を伝えるための情報発信の一つとして「まちの由來說明サイン設置事業」の実現に向け、まちづくり団体と取り組む。
方策02	・自然環境をいかした憩いの場の整備については、都市計画公園の遊具設置などの整備を行い憩いの場としての機能向上を図ったものの、人口減少による市民1人当たりの公園面積の目標達成となった。	・都市計画公園の遊具設置などの整備を引続き行い憩いの場としての機能向上を図るとともに、公園の適正な配置を検討していく。
方策03	・良好な街並み景観を目指し、伊東市景観計画等に基づき開発事業者に対して指導しているものの、アンケート調査では本市の景観が好ましいと感じる市民の割合が目標に至らなかった。	・本市の景観が好ましいと感じられるように建築物や工作物の制限内容など、伊東市景観計画等の見直しの検討をするとともに、引き続き、廃屋の解体撤去に係る費用の一部を補助しながら、本市の景観を著しく阻害している廃屋の撤去に努める。
方策04	・伊東駅前広場整備検討委員会は、新型コロナウイルス感染症の影響により予定どおり開催することができなかったことから、伊東駅前広場の基本設計をまとめることができず、目標に至らなかった。	・伊東駅前広場整備検討委員会の委員長と相談しながら、早急に検討委員会を開催し、関係する方々と合意形成を図りながら基本設計をまとめる。
方策05	・秩序ある開発事業となるよう開発事業者に対しては、土地利用事業等の適正化に関する指導要綱に基づき指導しているものの、アンケート調査では土地の使い方が良いと感じる市民の割合が目標に至らなかった。	・開発事業者からの事前相談の段階から関係各課と連携を取りながら指導を行い、土地の使い方が良いと感じられるような土地利用を目指す。
方策06	・伊東市宮天城霊園第3期計画の策定に向けた市民墓所需要調査の実施、その成果を反映した基本設計を作成した。	・基本設計を基に実施設計を作成し、第3期計画の実施を目指し確実に業務を推進する。

政策目標	2	安全・安心で快適なまち		
施策分野	11	公共交通体系の充実	担当課	都市計画課
目 標	便利で災害に強い公共交通体系の充実を目指します			

## ○ 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
	生活路線バスの年間乗車人員	209,030人	156,504人	215,000人	<b>C</b>

これまでの 推 移	指 標	H30	R1	これまでの 推移
	生活路線バスの年間乗車人員	196,628人	235,948人	→

## ○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 地域公共交通の利便性 向上・安全性確保	公共交通に対し満足してい る市民の割合	36.6%	35.3%	40%	<b>D</b>
02 緊急避難路や輸送路の確保 のための港湾整備の推進	伊東港年間利用者数	—	—	8,000人	<b>C</b>

《方策02：基準値(H27)、現状(R2)、達成状況》「基準値(H27)」については、第十次基本計画策定に当たり、新たに設定した指標であるため数値なし。指標には定期航路である伊東港初島航路の乗船者数を採用しており、H28 8,196人、H29 9,473人、H30 7,653人の実績があったものの、平成31年3月に定期航路が廃止されたことから「現状(R2)」については、“—”とした。「達成状況」については平成28年度から平成30年度の実績を基に判定した。



## ○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
地域の実情に応じた公共交通の検討	伊東市地域公共交通網形成計画に基づき、交通空白地域の解消に向けた取組を行い、地域における新たな交通手段について、地域住民で構成する検討会と検討を行った。

## ○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化 等）
成果指標	・ 便利で災害に強い公共交通体系の充実を目指し、生活路線バスの利用促進の取組により令和元年度には目標を達成したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は目標に至らなかった。	・ 市民の交通に対するニーズの把握に努め、地域交通網形成計画の具体的取組を実施し、利用者数の維持に努める。
方策01	・ 地域公共交通の利便性向上・安全性確保については、バス、電車の運行本数の維持を図り、バス事業者のスクールバスなどの取組により利用者が増加したものの目標に至らなかった。	・ 市内路線バスの維持、見直しなどを行い、地域交通網形成計画の取組を実施し、生活路線バスの運行改善に努める。
方策02	・ 緊急避難路や輸送路の確保のための港湾整備の推進として、平成31年3月に初島航路が廃止され定期航路が無くなり指標が無くなったが、平成28年度から平成30年度において、2箇年度については目標を達成した。	・ 港湾整備のための国・県への働きかけに努め、伊東港の整備、白石防波堤延伸、その他港湾施設改修を要望していく。

政策目標	2	安全・安心で快適なまち		
施策分野	12	道路環境の整備	担当課	建設課
目 標	円滑・安全・安心・快適な道路環境を目指します。			

### ○ 目標（成果指標）の達成状況

	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
成果指標	道路整備について満足している 市民の割合	48.7%	47.4%	51.80%	C
	幹線市道の整備率	95.3%	95.71%	96.30%	D

	指 標	H30	R1	これまでの 推移
これまでの 推 移	道路整備について満足している 市民の割合	51.4%	43.6%	↓
	幹線市道の整備率	95.23%	95.67%	→

### ○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 円滑な道路環境の整備	幹線市道の整備率	95.3%	95.71%	96.30%	D
02 安全・安心な道路環境の 整備	道路瑕疵による事故発生 件数	2件	2件	0件	C
03 快適な道路環境の整備	歩道のバリアフリー化 路線数	1路線 (累計18路線)	累計12路線	累計20路線	C



## ○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
市民と市との協働による道路の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊東市公共施設の里親制度（アダプトシステム）同意団体等に環境美化活動に必要な用具を支給・貸与するなど、市民による道路環境整備を支援した。</li> <li>・私道においても、道路の管理者に原材料等を支給することで、各地域と協働し、道路維持管理を支援した。</li> </ul>

## ○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化 等）
成果指標	・幹線道路の整備率は、用地取得が困難なことから、目標値を下回った。	・困難な状況ではあるが、用地確保可能な箇所から整備を進めていく。
方策01	・用地取得が困難なことから、目標値を下回った。	・困難な状況ではあるが、用地確保可能な箇所から整備を進めていく。
方策02	・道路瑕疵による事故発生件数は、0件を目標に維持管理を行っているが、毎年1～2件程度発生してしまい目標を下回った。	・月2度の道路パトロールを実施し、危険箇所の修繕を行っているが、気象状況を考慮し、パトロール回数を増やすなどの対応を図りたい。
方策03	・歩道のバリアフリー化は、民地側の現状により困難な箇所があり、進まない状況である。	・現在は、要望等による歩道の整備を主に行っているが、バリアフリー化の必要路線の調査を行い、安全安心な歩道整備の推進を図る。